第２号様式（第１２条関係）

令和７年度　第１回大和市文化創造拠点等運営審議会　会議要旨

１　日時

令和７年６月２７日（金）午後１時００分～５時００分

２　場所

文化創造拠点シリウス２階　２－２会議室

３　出席者

（１）審議会委員

５名

（２）市

ア　事務局

４名（図書・学び交流課長、図書係長ほか２名）

イ　関係者

３名（文化振興課長、学び交流係長、保育指導係長）

４　傍聴人数

なし

５　議題

（１）面接審査の流れについて

（２）企画提案内容の説明（プレゼンテーション、質疑応答）（公開）

（３）審査会

（４）指定管理者候補者の選定（公開）

６　議事要旨

（１）開会

事務局から、大和市文化創造拠点等に係る指定管理者の指定等に関する条

例施行規則第８条第２項に基づき、本審議会を開会することが宣言された。

（２）面接審査の流れについて

事務局から、面接審査の流れについて説明が行われた。また、書類審査について欠格事由等に該当する事項がない旨報告された。

（３）企画提案内容の説明（プレゼンテーション、質疑応答）

【プレゼンテーション】

応募者より企画内容について、プレゼンテーションが行われた。

【質疑応答】

委　　員：１点目、県民ホール休館中の連携とはどういうものか。２点目、昨今増加している外国籍の子供たちへの対応はどうしているのか。３点目、高校生バンド甲子園とあるが、高校生に限定する理由は何か。最後に、グリーンクリーニングについて、これはもう実施しているのか、それともこれからなのか。

応 募 者：１点目について、県民ホールが休館に入るために県内の施設でで出張事業を行うというものです。神奈川県の芸術文化財団との連携となるが、もうすでに始まっている。クラシックやミュージカルなどの芸術鑑賞に強い財団であり、そういった鑑賞事業を共同主催のような形で実施していく事業制作や広報など一つの公演を一緒に作ることで、県全体の文化普及活動の一端を、私どもが担う、貢献するといったところに繋がると考えている。２点目について、外国の絵本を含む蔵書をそろえるほか、分かりやすい日本語による案内表記を心掛けている。ただ、在住者比率と比べても利用が多くないのが現状だ。使いやすい環境を整えていることを利用者にどう届けていくかは課題だと考えている。また、厚木基地からも相談を持ち掛けられており、今後の展望として外国籍の子どもたちの利用について進めているところだ。３点目、渋谷学習センターで行われている湘南軽音フェスタにて、２年ほど前から高校生にも声をかけ参加してもらっている。こちらは、地元も高校生からの「発表の場があまりない」という声を受けて始まったものだ。４点目について、マイクロファイバーモップについてはすでに導入済みだ。そのほ

かにも床を吹く洗浄剤も変更済みだ。そのほか、ワックス前の洗浄剤やワックス自体もエコなものに順次切り替えていく予定だ。

事 務 局：そのほか何かあるか。

委　　員：芸術文化ホール関連サービスについて、サントリーパブリシティサービス株式会社（以下「ＳＰＳ」という。）がメイン、舞台技術については株式会社シグマコミュニケーションズに委託し、さらに再委託ということで４社あるが、これは市内企業か。

応 募 者：市内企業ではない。そういった専門業者が市内にいない。また、特殊で市販されているような機材ではないため、ホールを建築した際に設備を設置した業者が行っている。

委　　員：高い専門性が要求される点については理解している。少しでも利益が市の中で循環することにつながればと思い質問した。

応 募 者：安心安全面を考えると、やはり専門の業者が取り扱うことになる。

委　　員：承知した。次に、企画提案書のセルフモニタリングについて、芸術文化ホール年間利用者数の目標が「令和８年度」で「４２万人以上」とあるが、令和５年度が約２１万の利用実績であり、少し目標が高すぎるのではないか。

応 募 者：こちらの記載は誤表記であり、正しくは「令和１２年度」の目標として「２４万人以上」が正しい。また、補足として、こちらは行政が計画の中で掲げている目標を参考として掲載しているもので、私共の目標ではない。

委　　員：承知した。

委　　員：このチームはディフェンディングチャンピオンであるので、どのような提案するか悩んだとも思うが、前年度までの運営を肯定しつつ新機軸を盛り込みながらの提案という風に受け止めたうえで質問させていただく。１点目、市と市民との関係について。今回の提案の中には本来は市がやるべきものがかなり記載されているように思う。また、カスタマーハラスメントの問題もあるが、市民と良好な関係を構築していくのかという点であ

る。２点目、企業間の連携がどうなっているのか。日本を代表するそれぞれの専門企業だと思うが、例えば予算も指定管理料があったときに、切り分けてそれぞれ責任を持つのか、それとも一つのお財布の中でやっていくのか。今の説明を聞くと、どうしても切り分けた感じを受ける。もっと連携すればよいと思う。例えば、高校生のバンド場合、むしろＳＰＳが協力すればもっとブラッシュアップできるのではと考える。そのような形で連携し、赤字が出たときの責任の所在などが問題になるのではないだろうか。そこら辺の予算の考え方はどうなってるか。

３点目、人材について。これまでやってこられた中で、人材はかなり固定されているのか、それとも入れ替わってきてるのか。研修制度の中でも新人向けの研修があるということは、入れ替わっているということだと思うが、入れ替わった場合の蓄積していたノウハウの上手な継承など、そこら辺をどう捉えているのか。また、研修は職員となっているが、職員のほかに実際に運営に携わっているスタッフや、外部委託業者の方々に対する研修はなされているのか。以上３点である。全て予算に絡むことだと思うが、今回、市の方の要望はできるだけ安くならないのか、というものだと思う。提案の中ではコスト削減策が数多く書いてあるはずだが、全体の指定管理料は下がらない。その理由をご説明いただきたい。

応 募 者：１点目の大和市との関係については、冒頭説明したように館長会議、それからＪＶ会議を毎月定期的に開催しており、太い情報共有を行っている。外部の営業サイドでは、これら以外にも日常的に営業という名目も含めて都度コミュニケーションを図る機会を確保している。また、市民との関係については、1期目からの運営を通じて、やはりもっとアウトリーチしていく必要があると感じ、課題として考えているところがある。例えば、大和市民まつりへの参加や、中央林間のフリーマーケット「中央林間マルシェ」では、一部公園の一角を借り、屋外でお話し会をするなどの具体的な取組を行ってきている。直近では自治

会が主催するお祭りにおいて企画した工作会に図書館の人間が参加し、自治会の皆さんと一緒に子供たちと触れ合う機会を設けているが、それを周知するために、自治会長さんたちに協力をしていただき、自治会の掲示板に案内のポスターを貼っていただいたりする関係が出来上がっている。この動きをより強くし、広げていきたいとの思いでいる。

委　　員：そうなると、人材は足りるのか。

応 募 者：では、３点目の人材のご質問と合わせて答えさせていただく。人材については､「人にしか対応することのできないところに人材を注力する」という提案をしている。一例として、今回の仕様では、カウンターへのスタッフ常駐の記載が外れている。これは大変大きく、その結果、時間別にする、メインのカウンターに人材を集約させるなどの工夫の余地が仕様にあった。決して無理な赤字覚悟で全部やるとかそういう提案ではない。次に、研修については臨時のパートも含め全員が対象である。やまとみらい全体の研修の他に、各企業で専門的な研修を受けており、スタッフは一定のスキルを持って配置される。固定化されるか移動されるかについては、ケースバイケースである。５～６年勤務するスタッフもいれば３年程してスキルを積み、別の施設で館長や副館長として赴任する事例もある。そこは各企業、考え方や人材育成の仕組みによる。最後に、予算配分について。予算については完全に各会社ごとである。そうしないとおそらく成立しない。図書館を除きそれぞれの施設に利用料金があり、それぞれが努力しインセンティブとする仕組みの方が分かりやすい。今後は、広告収入についての企画を試みたいと考えている。これについては、「その他収入」に目標として入っている。「その他収入」は、駐車場の利用料と広告料を合算し、毎年若干増えていくような形で記載している。この収入は各社按分となっており、共通の仕事、事務局運営、全体広報、ホームページ管理などに充てている。

委　　員：そうすると、何か各社共同でやる事業は実績としては少ないの

か。

応 募 者：これまでも色々と連携し、共同で事業を行ってきたが、実は共同で行うと人の手配等で逆に費用が掛かってしまうこともある。やはり昨今の人件費が高騰している中で、なかなか我々が望む満額回答が出せなかった。その結果、やはり連携事業を減らさざるを得ないという結論になった。ここ１０年間、この顔ぶれでやってきたこともあり、「やまとみらいスピリット」のようなものがある。苦しい言い訳となるが、「それぞれが企画するものは自ずと連携事業だ」という考え方でやっていこうじゃないか、ということになった。

応 募 者：図書館に関する部分について補足する。一点目の市との関係性について、公共施設を運営していくにあたり、どこまでが図書館単独で行いどこから自治体で行うところなのか、正直切り分けは難しい。予算に関することは現場ではできないが、外部との連携、例えば、社会福祉協議会等との連携や、ひきこもりの方々の社会参加についてきっかけを作るための図書館受入れなど、地域と繋がりを作っていくということも教育施設の役割だと考えている。その分、他のところで効率化をしつつ工夫しながらやっていきたい。他にも、司書課程の学生からアンケート依頼がかなりの件数来る。依頼全てにお答えすることは難しいが、できる範囲で対応している。そういった一連の活動が、地域の図書館の存在意義につながっているいると考えている。文化や教育は、目先のお金にはならない積み重ねが大切であるとも考えており、厳しい状況だが継続していきたい。また、人材研修に関しても、契約社員を含んだ全ての社員を対象に研修を行い、ジョブローテーションを行って視野を広げる仕組みを作り、サービスの向上につなげている。

委　　員：承知した。

事 務 局：そのほか何かあるか。

委　　員：大小４点ばかり質問したい。１点目、セルフモニタリングの「評価すべき状態」に「文化を届ける」「文化にふれる」「ともに創

る」とあるが、文化といっても各施設で中心に据える文化があると考える。そのことについて伺いたい。２点目、市との関係でなかなか独自にはできないと思うが、芸術文化ホール関連事業の「特別貸館事業」についてもう少し具体的に知りたい。３点目、予算の関係について。市の予算が厳しい中で修繕費などは厳しいのか。ポラリスの扉が半年以上修繕されないままだった。市民の安全性にかかるものを最優先にしていると思うが、事業費とのバランスなどについてどう考えているのか。４点目、費用との関係について、何かスクラップアンドビルドのようなことは行ったのか。学習センターや図書館の事業数を減らさざるを得なかったという話だが、例えば、学習センターでスキルを持っている職員がいると思うが、そういう職員を講師に活用するなど、自前で調達すれば費用を抑えられるようなこともあるだろう。最後に、社会教育委員の方からの声について。社会教育委員から、「市直営時よりも地元の団体と協力関係が薄くなっている」という声がある。指定管理施設となり、独自事業を展開しつつ、地域と協調しながら進めていくという提案であったので、その辺は改善してもらえると思うが、その辺りについても意見を伺いたい。

応 募 者：一点目について。図書館については、今まで「健康図書館」という大きなテーマがあった。そのため、健康増進というレファレンスと、講座を毎日開催していた。「健康」を中心に、必ずしも医療情報だけでなく、関係するレクリエーションや音楽など、自発的な学び全てが文化であるとの考えでいる。芸術文化ホールについては、大和市が定めている文化芸術振興基本計画に則り文化芸術というものを捉えている。その対象については国が定めている文化芸術基本法に提示されている芸術、メディア芸術、伝統芸能、生活文化であったり、そういったものに則って文化をとらえている。学習センターについては、少し趣旨が変わってしまうかもしれないが、「人と人との繋がり」と「人の成長」を大切にしている。屋内こども広場については、「子どもの

健やかな成長」を大切にしている。２点目について。今回市の方から提示された芸術文化ホールの仕様書の中に新たに「特別貸館」というものが追記されており、その文章を我々の方でどう読み解くかというところで提案書を書かせていただいた。具体的にどうしていくのかはこれからで、今まで私どもＳＰＳが培って来た関係者との繋がりの中から進めていければと考える。ただ、一番考慮しなければならないこととして、既に９０％以上の高い稼働率の施設という点だ。特別貸館事業を高い頻度で行うことで、市民利用にしわ寄せがくることは絶対に避けなければならない。公平性を担保しながら、運用方法や頻度というのはこれから検討していきたい。４点目、修繕については、定期的に点検し、内容を見て利用者の安全性に影響が出るところを優先的に修繕しているが、長い間修繕されていない箇所があったとは知らなかった。申し訳ない。

委　　員：言及した箇所は既に修理済となっていた。

応 募 者：新しい提案事業の移動図書館車「ＬｉＢＯＯＮ」については、やまとみらいで所有するという考えではなく、図書館流通センターで所有しているものを都度レンタルすることを想定しているため、そこまで大きな費用がかかる提案ではない。

応 募 者：事業数の減少について、図書館から。現在までは、毎日健康テラスでイベントを行ってきたが、今回、回数については明示していない。図書館スタッフによる研修講座、地域の講師の方の協力を得てなるべく引き継いでいこうとは思うが、今まで以上に図書館の負担が大きくなる中で、今まで通り続けていくことが果たして可能なのかというのは精査をする必要がある。学習センターについて。事業数の減少、職員のスキルを生かす点、地元の団体との直営時との比較について、まとめて答えさせていただく。まず経費削減については、正直なところ、人件費が全体としてもかなりウエイトが大きいため、それほど大きく削減することは難しい。その中で講座の数は仕様の中でかなり減っており、講座数が減れば単純に経費の方は減る。それでも限

界があるため、利用料収入の方を増やすところに力を入れていきたい。近隣の市町村と情報交換をしており、大和市は必要な書類が多く団体の登録がしにくいという声がある。決まりの中でより登録しやすい工夫を増やしていこうと考える。また、自主事業について、趣味性の高いものの中には収益性が高い講座もあるため、収益性の高いものを多く導入していきつつ、講座数の確保はしていきたいと考える。やればやるだけ赤字ではなく、一部は黒字化できるという形をとりたい。地元の団体との関係について。確かに地区館直営時は団体の方と一緒に進める事業が多かった。指定管理になり、我々も独自の事業をやりたいというところもあり、また、話をする中で、団体の方もメンバーが少なくなり、講座を自分たちで開くことが負担になってるという声も併せてあった。我々が協力して一緒にできるようなものはないか、繋げられる団体はないかなど色々話をしていく中で、少なくなってしまったという背景がある。今後は、やりたいという団体もいるため、指定管理者主催事業とのバランスを取りながら進めたい。

委　　員：健康テラスについては、講師の先生方の生きがいにもなってる。職員の負担は増えると思うが、そのような側面もあるため、お金のかからないやり方でできたらと考える。

公 募 者：承知した。

事 務 局：予定時間を超過しているが、会長の方から何かあるか。

会　　長：短めにお答えいただけそうな質問を三つお願いしたい。1点目、「文化創造アンバサダー」について。大変素晴らしいと思う。この条件、規模、育成方法などについてお考えを教えていただきたい。２点目、図書館について。コンセプトのうち「ともに創る」という観点が今回のプレゼンテーションでは少し薄かったように思う。もし補足等があればご説明願いたい。３点目、こちらも図書館について。「サービス向上のための多様なスキルを持った人材の配置」ということで大変わかりやすくプレゼンしていただいた。高齢者サービスにも力を入れるということで、

認知症サポーターの方がどれくらいいるのかについて教えていただきたい。

公 募 者：１点目、現在のやまとみらいパートナーの方は、どちらかというとイベントを中心にしたい要望が多かった。文化創造アンバサダーは、地域の情報発信に関わっていくような形で募集していきたい。初年度からフルスペックで開始することは難しいと考えるが、既存メンバーにおいてもアンバサダーの活動に興味のある方を募りたい。条件に関しては、シリウスの特性を考え関心を持たれている方がいれば積極的に受け入れ、文化を一緒に作っていければという考えでいる。２点目、アンバサダーを通じても、ともに創ることにつなげられると考える。現行で行っているものとしては、ティーンズ向けの「シリウス図書委員会」は、県の教育委員会から注目をされている。今後は「子ども図書委員会」のようなことも試みたいと考える。３点目、今、具体的な認知症サポーターの人数はお伝えできないが、スタッフ向けの研修を定期的に実施し、認知症の方に寄り添ったサービスができるよう努めている。

会　　長：承知した。

事 務 局：まだまだ尽きないと思うが、時間の都合上、以上をもちまして質疑応答は終了させていただく。

（４）審査会

・応募者からの企画提案内容の説明を受け、委員による仮採点を実施し、その結果を共有しながら審議を行った。

・審議後、改めて委員による最終採点を行い、結果を事務局が集計した。

・合格評価点は最低基準点の３７２点に評価者数を乗じた１，８６０点以上であり、かつ最低基準点以上を付けた評価者の数が過半数以上であったため、審査要領に定める欠格基準に該当しない旨確認された。

（５）指定管理者候補者の選定

・審査会の結果、仕様書等で示す要求水準を満たすと認め「やまとみらい」を候補者として選出する旨決定した。

（６）その他

・事務局より選定結果について取りまとめ、文書で市長に提出すること及び市長が決定した候補者については９月に行われる市議会議決後、指定管理者として確定することになる旨説明した。

（７）閉会

会長より、審議会の閉会が宣言された。